第14号

「めぐみちゃんのまちづくりだより」

～　市民と農家の宝もの　けやきの里のめぐみです　～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。北町の『農のアカデミー体験実習農園』では、８月～11月にかけて秋作の種蒔から収穫までを行いました。

事業のねらい

援農ボランティアさんたちにとっては、
農を知り、農を学び、農を楽しむ
子どもたちにとっては、
農を楽しみ、農に親しむ場とします。

事業の効果

農の生涯学習を目指しています。

農のアカデミー体験実習農園での主な活動（８月～ 11 月）

8月

農のアカデミー体験実習農園の秋作は、援農ボランティアさんの区画では種まき（ニンジン、ダイコン、ミズナ、コマツナ）、定植（ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー）を行い、幼稚園・小学生の区画ではニンジンとダイコンの種まき、その他に児童センターの区画では、ハクサイの定植も行いました。

8月は秋作の作付準備のために、畑に肥料をまいて「地ごしらえ」を行いました。また、一足先にキャベツとブロッコリーの定植も行いました。

小さな苗もやがて大きく育ちます。

お水をたっぷり与えます。

地ごしらえは大事な作業です。

白菜用にはマルチを敷きます。

9月

9月に入り、農のアカデミーでは参加団体区画で秋作の作業が始まりました。幼稚園や小学校の子どもたちは、まだまだ残暑が続く中、指導農家さんと援農ボランティアさんに指導をしてもらいダイコンの種蒔をしました。

7月に種蒔をしてからぐんぐん育っているニンジンの間引きも行いました。間引きでは、株間を一定の間隔に保ちながら、成長の遅い株を中心に間引きます。農家さんと援農ボランティアさんで間引きを行うと、あっという間に終わってしまいます。

ダイコンの種の蒔き方を学びました。

小さな種は落とさないように慎重に！

白菜の定植方法を教わります。

間引きは作物に必要不可欠です。

10月

10月の畑では、春に援農ボランティア用区画に種を蒔いた落花生が収穫の時期を迎えました。落花生の栽培は、今回が初めてなので期待と不安の中の収穫です。収穫方法は、落花生の根を押さえながら、土をシャベルで掘り起こします。落花生の実を落とさないようにして、土の中から引き抜きます。収穫した実は、殻のまま弱火で30～40分塩茹でします。ピーナッツご飯もおすすめだそうです。

下保谷児童センターの子どもたちは、5月の中旬に定植したとっても立派に育ったサツマイモの収穫をしました。

焼き芋、スイートポテト、大学芋…何にしよう?

予想以上に沢山採れました。

塩茹でして食べると美味しいです。

11月

秋作の作物の収穫で忙しい時期になりました。援農ボランティア用区画では、ニンジン、キャベツ、ブロッコリー、コマツナ、ネギ、ハクサイ、ダイコンの収穫をしました。台風の影響や虫食いなど、色々な問題を乗り越えて、立派に作物が育ちました。

子どもたちの区画でも、大きく育ったダイコンとニンジンが収穫の時期を迎えました。11月中旬の農のアカデミーからは、連日子どもたちの元気な声が聞こえます。自分たちで種を蒔いたニンジンとダイコンの収穫に、大盛り上がりです。収穫の前に農家さんから「収穫した作物のにおいを嗅いでみて。土の香りと野菜の香りが感じられるよ。」と教えてもらい、早速収穫したニンジンやダイコンのにおいを嗅いでみる子が沢山いました。

農のアカデミーでは、指導農家さんや援農ボランティアの方が作業の方法や畑で育つ作物についてなど、様々な話をしてくれます。畑での作業をとおして、普段何気なく目にしていた近隣の畑にも興味を持ったり、自分で育てて、収穫した野菜を食べて、農への理解と関心を持つきっかけになることを願っています。

西東京市では、貴重な農地を残していくために、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用した、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。「農のアカデミー体験実習農園」は、本事業の支援を受けています。

発行：西東京市
生活文化スポーツ部
産業振興課